



伸びよ！ 人材の森となれ

中国の英知^{えいち}の言葉に「十年樹木、百年樹人」とある。すなわち「十年先を考えるなら木を植えよ。百年先を考えるなら人を育てよ」。青空へ伸びゆく木々の緑に、人を育てる^{うづく}労苦と喜びを重ねる心情は、古今に変わらないもの

かもしれない。

写真は2007年（平成19年）8月、池田名誉会長が、長野研修道場でカメラに収めた。恩師・戸田第2代会長と最後の夏を過ごしたこの地で、青年の錬磨^{れんま}に汗を流してきた。「指導者は、第一にも、

第二にも、人材を見出すことに、懸命でなくてはならぬ」との若き日からの決意のままに。

人材で未来は決まる。そして人材は、間断なき闘争^{とうそう}の中で磨かれる。人材の森を築く挑戦を、自分自身から始めたい。



「人材で勝つ」実践の先頭に立ってきた池田名誉会長。陽光輝くアメリカ・カリフォルニアで、青年と語らう（1993年9月）

未来のために残すべき
最高の財宝は、
人材である。
その人材を見つけ、
育てる人こそが、
真の人材である。
そして、
人を育てることによって
自分自身が磨かれ、

成長していくのである。
私とともに、
未来のために
黄金の汗を流そう。
二十一世紀の、
緑のしたたる
人材の森をつくろう。
人材育成の要諦は、

第一に「会う」ことだ。
会って、その人を知ることだ。
知って、その人を励まし、
成長を願い、祈ることだ。
第二に、友と一緒に動き、
一緒に戦うことだ。
口先だけの指導は通用しない。
我らは
共戦の正義の同志なのだ。

上意下達の時代ではない。
同じ目線で、
ともに人生を語り、
仏法を語っていく。
よき刺激を与え、
ビジョンを示し、
希望を贈っていく。
そこに人材は育つ。
勝利の道は開かれる。
人ではない。
自分が変わることだ。
真剣な祈りで
人間革命していくことだ。

信仰者とは
「育ち続ける人」
でなければならない。
創価学会は
「育ち続ける団体」である。
そして「人材をつくる」団体、
「有為な人間を社会に輩出する」
団体なのである。